

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Update on the prevalence and determinants of folic acid use in Japan evaluated with 91,538 pregnant women: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 91,538名の妊婦を対象に評価した、日本における葉酸摂取率およびその規定因子: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine

年: 2020 月: 2 巻: 33(3) 頁: 427-436

筆頭著者名: 石川 智史

所属UC名: 宮城UC

目的:

日本における妊娠前からの葉酸摂取率およびその規定因子について、質問票の記入年や地域別の評価を含む最新かつより確かなエビデンスを提供することを目的とした。

方法:

妊娠前および妊娠中の葉酸摂取および対象者背景に関する情報は質問票、インタビュー票およびドクター調査票により収集した。

結果:

91,538名の女性について、葉酸摂取に関する十分な情報が得られた。妊娠前からの葉酸接種率は8.0%と低いものの、登録機関4年間で改善傾向にあった。様々な社会人口学的因子、生活習慣、出産歴、薬剤使用歴が葉酸摂取の有意かつ独立した規定因子であった。妊娠前からの葉酸摂取とその主要な規定因子の関連は、いずれの地域においても同様であった。

考察:(研究の限界を含める)

本研究では、葉酸サプリメントと葉酸を含む医薬品を区別せずに評価を行っている。また、葉酸の摂取頻度や用量に関するデータを収集していない。

結論:

葉酸未摂取の関連因子を有する妊娠が考えられる女性に対し、神経管閉鎖障害予防のための葉酸摂取の重要性を情報提供していく必要がある。